

COLLABO

2025 Vol.2



特集① 学校応援団

鶴ヶ島市立杉下小学校



特集② 放課後子供教室

本庄市小学生学習支援事業（学ぼう舎）

共和公民館・本庄南公民館



鶴ヶ島市の給食について学ぶ学校応援団の方々

特集① 鶴ヶ島市立杉下小学校応援団



朝採りとうもろこしを提供することも

七月十一日（金）鶴ヶ島市立杉下小学校を訪ね、学校応援団の取組を取材させていただきました。杉下小学校の学校応援団の活動は、登校指導や下校パトロール等を行う「安全」、樹木の剪定や校内外の営繕等を行う「環境整備」、読み聞かせや昔遊び等を行う「学習」、パソコン事務や写真撮影等を行う「その他の活動」に分けられ、大変多くの方々の協力によって実施されています。

今年度の一学期は、一・二年生と一緒に給食を試食していただくという事になっており、この日は、学校応援団コーディネーター、スクールガイド、読み聞かせボランティア（ラプンツェル）の方々が、16名参加されました。

杉下小学校3年目となる栗原智靖校長先生は、学校応援団の取組を「本当にありがたいこと」と表現され、保護者や地域の方がたくさん参加される学校応援団の取組への感謝の気持ちを形にするため、給食試食会を開催するようになったそうです。

訪問した日は、いつもお世話になっている学校応援団の方々と子供たちが一緒に給食を食べることで、感謝の気持ちを伝えたいという企画を見させていただきました。

給食試食会



地場産野菜を使ったこの日の献立

試食会では、まず初めに、鶴ヶ島市の給食について、栄養教諭の方からお話がありました。鶴ヶ島市の小・中学校児童生徒の給食を毎日約五千食作っていることや、献立については約三か月前から考えていること、衛生面で気を付けていることなど、学校応援団の方々も初めて知ることが多かったようで、熱心に聞き入っていました。



自然と笑みがこぼれる応援団の方

学校給食に地場産野菜を多く取り入れているという鶴ヶ島市。この日の給食はごはん、牛乳、夏野菜カレー、フレンチサラダでした。鶴ヶ島市で作られたなすやにんにく、トマトがカレーに、きゅうりがサラダに取り入れられ、提供されていました。

地場産野菜

さまざまな話をしてくれる子供たち

杉下小学校では二年生で「朝ご飯を食べよう」、三年生では国語「すがたをかえる大豆」という単元に合わせて「大豆のお話」、四年生では「朝ご飯はどうして大切か」という授業に栄養教諭が参加し、学習として位置づけて教育課程を編成しています。中学校になっても「カルシウムの大切さについて」を学習する時間があるそうです。

席に着くやいなや、自己紹介をする子供やこの日の授業のことを教える児童の話に耳を傾けていた応援団の皆さん。「いただきます」をしてからも、なぞなぞが始まりました。じゃんけんをしたりして、あつという間に「ごちそうさま」の時間になったようです。牛乳パックのたたみ方を教えて、と聞いたらグループにいるみんなが口々に教えてくれてありがたかったですという応援団の方もいました。

控室にいる学校応援団の皆さんを緊張した面持ちでお迎えに来た低学年の子供たち。その様子を見て、あたたかな眼差しで受け答えをする学校応援団の方々。教室へ案内され、指定された場所まで児童に誘導され、うれしそうな表情で座席に着かれました。



みんなお話したいことがたくさんあるようでした

お話ししながらおいしい給食を残さず食べます



感謝の思いも込めて「ごちそうさまでした」

給食試食会の後、学校応援団コーディネーター、スクールガード、読み聞かせボランティア（ラプンツェル）の方々にお時間をいただき、お話を伺いました。

杉下小の応援団を支えるコーディネーターは3名。埼玉県では、学校応援団も含めた地域学校協働活動の取組を持続可能なものにするために、コーディネーターの複数配置を推進しております。人材不足を課題とする市町村が多い中で、3名ものコーディネーターがいる杉下小学校。

「魂ふるえたら即行動」をモットーとするPTA副会長の小林さんは、仕事の関係から、地域密着に興味があるとのこと。学校と家庭と地域の三者の連携について、話を聞いているだけではわからなかったそうですが、応援団の取組にいき自分が携わってみると「これは街づくりにつながっているな。」と思ったそうです。「子育てに関心のある保護者の方が多いと思うので、子供たちのために、できることから始めていきたいと思います。」とお話をされました。

元PTA会長の辻さんは、「楽しさよりも苦しいと感じることが多いかもしれない。でも子供たちと触れ合って、子供たちのためだと思えば、頑張れちゃうんですよ。」と話し、「地域の方々が杉下小の子供たちのために様々な取組をしてくれている。コーディネーターという立場であることを意識して、様々な橋渡しができるように努めている。保護者の方には、ちよつとでもいいので、できることに関心をもつて、手を貸していただけたらありがたいです。」と熱い思いを伝えてくださいました。

辻さんに声をかけたという、もう一人のコーディネーターである田口さんは、「課題は人を集めること。今はインターネットを通じて、幅広く情報の発信や収集することができ、会って話すことが少なくなってきた。人の情報は入ってきてても連絡先が分から

ない。やはり会って話さない。」と人を集める苦労についてお話をされました。「まずは知り合いになつて直接話をするところから始まる。そしてやりたいな、っていう気持ちになつてくれたら、あとは背中を押すだけです。」これが、これまでに多くの人材を発掘するために御自身が取り組んできたことだそうです。

定年まで働いていた田口さんは、会社を辞めた時に地域に仲間がいなくてに気づき、自治会の班長になった時に、人脈の大切さを感じたといいます。



たくさんの人とつながりのある田口さん



「田口さんのおかげ」と言われることも多いけれど、いつまでもそうはいかないので、次の人にどんどん渡していかななくてはいけない、と今後の杉下小の学校応援団について心配していることも語ってくれました。

杉下小の子供たちの存在について伺うと「活力」「宝物」「元気もらえる」「幸せ」という言葉が返ってきました。表現は違えど、未来ある子供たちを思う気持ちは同じであることを感じました。

お話を伺った後、学校応援団室を案内していただきました。他の用途で使用していた教室を、新たに学校応援団室として多くの方々に使っていたように整備を進めているそうです。

この部屋で、杉下小学校の子供たちのために、学校応援団の方々が集う日が、楽しみです。



杉下小学校紹介

住所：鶴ヶ島市大字五味ヶ谷251番地

児童数：390名（6月27日現在）

学級数：15学級

開校年月：1979年4月（開校47年目）

学校教育目標：なかよく・かしこく・たくましく

杉下小のキャッチフレーズ：学び 笑顔 元気

学校HP：<https://tsurugashima.schoolweb.ne.jp/1110044>

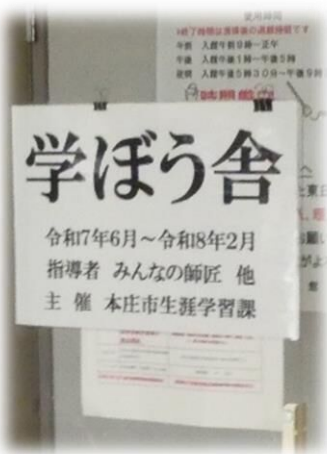


特集②本庄市小学生学習支援事業「学ぼう舎」

本庄市では、土曜日に「学ぼう舎」という放課後子供教室が六箇所の公民館で開催されております。

「学ぼう舎」この名称の由来は、異学年や地域の方、保護者も含めて一緒に学びましょう、というところからきています。そう話すのは、名付け親でもある共和公民館の館長八年目になる和田高一さん。学ぼう舎では、地域住民である「みんなの師匠」が中心になり、様々な体験学習を「学ぼう舎タイム」と位置づけ展開しています。

「みんなの師匠」は毎年、広報紙やホームページで募集しています。現在では、約38名の「みんなの師匠」が活躍しており、体験学習の「学ぼう舎タイム」と国語・算数を主とした「自主学習」の時間があります。



公民館入口にある表示

共和公民館

七月五日の「学ぼう舎タイム」は、「七夕飾りをつくろう」でした。近所の方が、自宅にある竹を切って朝届けてくれたそうです。子供たちは会場の中央に飾られた竹を見て、どんな飾りを作ろうか、どんな願いにしようか迷っている様子でした。まず初めに折り紙を切ったり折ったりして、たくさんさんの七夕飾りを作っていました。



「みんなの師匠」でいることが生きがいに

一年生から参加している六年生の児童に、今年楽しみなことは何か聞いてみると、「今年はスイーツづくりが二回もあるので、すごく楽しみにしています。」と答えてくれました。サポートとして参加された保護者の方は、「子供と一緒に参加させていただし、とても楽しく過ごせています。毎年、楽しい企画を考えてくださるのでありがたいです。」とお話をされました。



願いがかないますように



今年度で解体となる共和公民館

令和二年度から実施している「学ぼう舎」の参加者は年々増加しているそうです。幅広い体験活動が異世代間で行われる貴重な時間。楽しみにしている人が多い「学ぼう舎」ですが、保護者の方への認知度が低いので、情報をたくさん発信していきたいと話すと和田さん。共和公民館では、公民館事業の先生にも講座をお願いをしています。特に、福祉体験教室は、小学校4学年の総合的な学習の時間で学んで終わってしまうことが多いので、学ぼう舎では参加している児童が毎年体験できるようにしています。



片付けも子供たちで

温かい関係性

和田さんは、「一年間で子供の成長がとてもよく分かる。六年間通った子は、みんなから慕われるほどに成長します。」とうれしそうにお話されました。途中で帰ることもあった下級生を見かけた上級生は「あとで作っておくよ」と温かな声をかけていました。まさに兄弟のような関係性ができているな、と感じました。



短冊には、「計算が早くできるようになりますように」「ケールとけのび、バタ足の息継ぎが上手になりますように」「友達とずっと仲良しでいられますように」など、思い思いの願いごとが書かれていました。

この日訪れた本庄市の下野戸教育長は、「『学ぼう舎』を経験した児童が、将来大きくなって、地域の子供たちのために、運営側に回っていったってほしいです。」とお話をされました。

本庄南公民館

本庄南公民館には16名の児童が集まっていました。本庄南公民館の「みんなの師匠」は元教員の方が多く、それぞれの専門性を生かした講座が開催されています。共和公民館と同様に、館長の新井宏昌さんがコーディネーターとなつて、運営内容等を計画しています。「みんなの師匠」による講座以外にも、外部講師による講座も計画されています。

この日の内容は「クレーンゲーム」。子供たちはとてもわくわくした様子で公民館に来ていました。



紙コップを使ってクレーンゲーム



丁寧に材料を手渡し

子供たちのことを 思つて

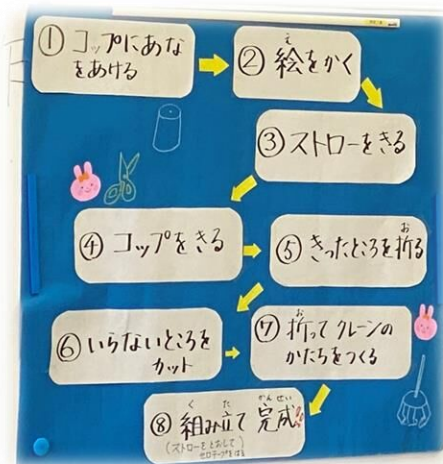
会場に入ると、「クレーンゲーム」を作る順番を示した掲示物や文房具などが準備されていました。新井さんにお話を聞くと、毎年参加してくれる子もいるので、できるだけ違うことができるように工夫をしているとのことでした。そうともなれば事前の準備も大変です。各回の終了後に次の確認を行つて、スムーズに運営できるようにしており、それぞれの特技を生かして準備等をして、当日を迎えているそうです。子供たちが毎回楽しみにしていることを思えば、準備することは大変なことではないのだろうな、と感じました。



用意された折り紙の数々



整然と並べられた文具類



手順を示した掲示物



わくわくどきどきのクレーンゲーム

「クレーンゲーム」ということで、何を取るのか気になつていたら、そこにはたくさんの手作りの折り紙が用意されて、驚きました。子供たちは紙コップに好きな絵を描いて楽しんでおり、できあがつたクレーンで折り紙を吊り上げる時になると、早くやりたいくて仕方のない様子で、順番が来るとみんな夢中になって取り組んでいました。

自主学習

本庄南公民館では、自主学習の時間に必ず取り組んでいるのが、百マス計算。回数を重ねるごとに解く速さが速くなり、間違ひも少なくなる子供たちの成長ぶりに、スタッフの皆さんは驚かされるそうです。子供たちも目に見えて力がついているのが分かるからか、百マス計算に取り組むのを、毎回楽しみにしているそうです。



自主学習も楽しい時間

公民館ならではの

本庄南公民館ではどのような安全対策が行われているのでしょうか。年度初めの講座がある日にオリエンテーションとして避難訓練を実施しているそうです。公民館を初めて利用する児童もいるため、公民館の各部屋を紹介すると同時に、安全な避難の仕方を学習する時間を設けているそうです。公民館には和室や調理室もあるので、様々な体験学習ができる利点もあります。調理実習の際は、アレルギーの心配もあるので、保護者に使用する食品について必ず確認をしていただいています。

また、この日は暑かったので休み時間に外で遊ぶ子供はいませんでした。が、外に遊びに行くときは、必ずスタッフが同行して、安全に過ごせるように配慮しています。

昨年度本庄南公民館の「学ぼう舎」を卒業した6年生の中には、終わりになるのが寂しいと言っていた児童もいたそうです。また、中学3年生の生徒が「学ぼう舎」実施日に公民館に顔を出してくれることもあり、高校生になったらボランティアとして参加したいと話をしており、新井さんは今から楽しみにされている様子でした。下野戸教育長がお話しされたことがすでに現実になっているのを感じました。

学校とは違う公民館という環境で、「みんなの師匠」から様々なことを学んだり、体験したりできる「学ぼう舎」は、子供も大人もかけがえのない時間を過ごす「学び舎」として今後も本庄市の多くの子供たちの成長の場として充実していくことでしょう。



地域学校協働活動News

地域とともにある学校づくりの起点を考える ～機能する学校運営協議会をめざして～

地域学校協働活動推進セミナー開催

埼玉県では、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるとともに、地域を創生する活動の推進に向け、地域学校協働活動の理解促進及び中核を担う人材の育成を目的としてセミナーや研修を実施しています。今回は明星大学特任教授であり、文部科学省CSマイスターでもある朝倉美由紀先生を講師にお招きして、八月八日（金）に開催した地域学校協働活動推進セミナーの様子を紹介します。

学校運営協議会の導入から二十年以上が経過した今、成果が見られる一方で、協議会の形骸化や教員との認識のずれなど様々な問題点が浮き彫りになっています。今一度そのような現状を知り、原点に立ち返ることで、改めてその運営を見直すことが必要です。そのため、「地域とともにある学校づくりの起点を考える」機能する学校運営協議会をめざし

て」というテーマのもと、学校を核に社会一丸となつて子どもを育てる仕組みづくりの重要性について話をいただきました。

教職員や学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、家庭教育アドバイザーなど四十二名の方に本セミナーへご参加いただきました。立場を異にする方々がグループに分かれ、講演からその後のワークショップまで、終始和やかな雰囲気の中で交流を深められました。



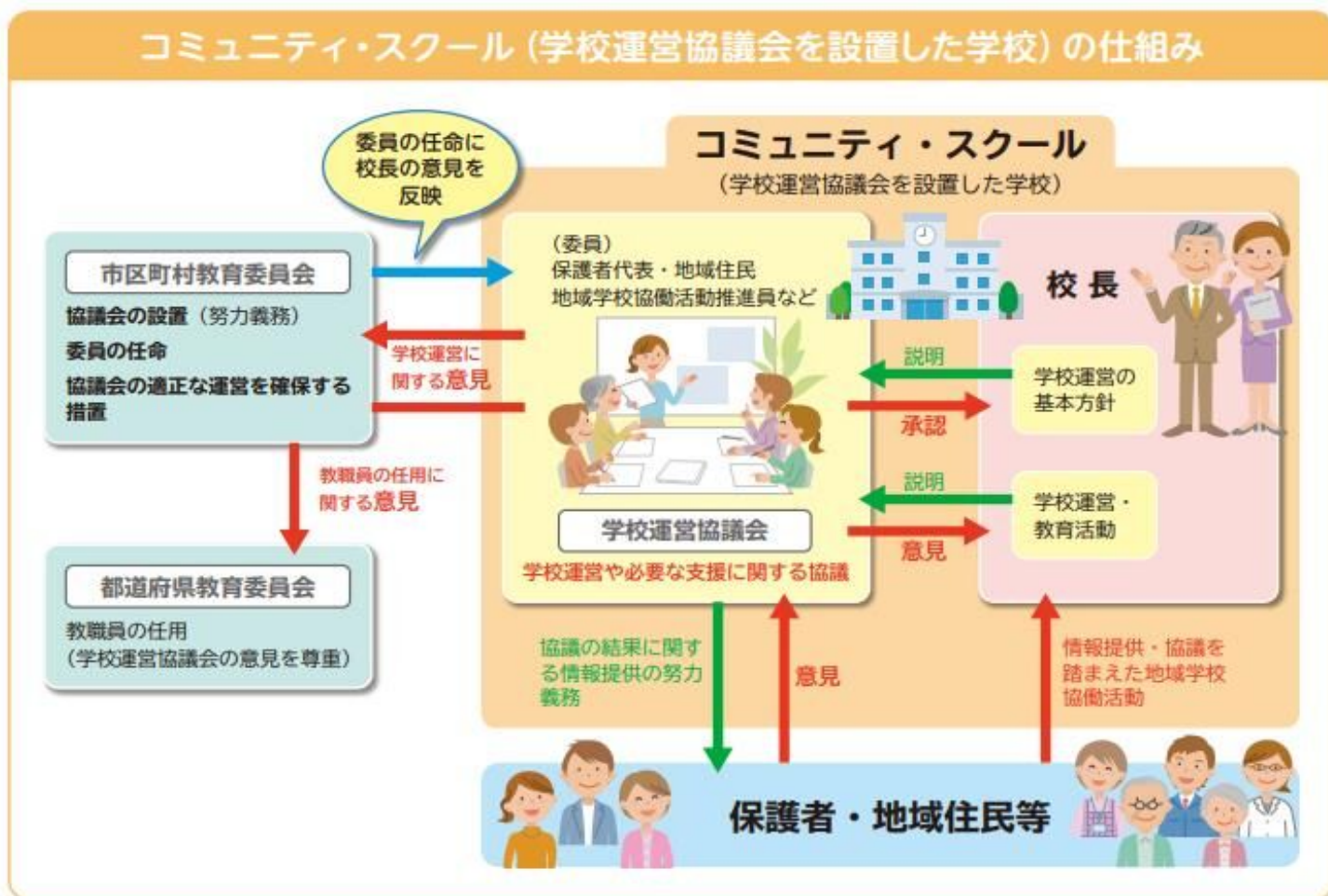
コミュニティ・スクールとは？

「コミュニティ・スクール（CS）」とは、「学校運営協議会」を設置している学校です。この学校運営協議会には地域の方と学校関係者、地域学校協働活動推進員等が出席し、子供たちの未来を考える取り組みについて日々協議を重ねています。社会に開かれた教育課程の実現や、学校課題の解決を目指し、子供とともに地域も育つことができる取り組みです。



地域学校協働活動News

コミュニティ・スクール (学校運営協議会を設置した学校) の仕組み



「これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」 (文部科学省 令和2年3月)

なぜCSに取り組む必要があるのか

学校運営協議会が設置されると、一体どのような利点があるのでしょうか。CSによって、地域の大人たちが子供たちに関わる機会を持てるようになることには、たくさんのメリットがあります。その一つとして、子供たちが、人と人とのつながりの中で協働し、「こうあったらいい」を実現する大人たちの姿を間近で見られることが挙げられます。その姿を見て、子供たちは協働し続けるロールモデルを学ぶことができます。生涯を通じて学び、人と関わり続ける姿勢を見せることで、子供たちに将来の地域について考えるきっかけを与えられます。学校本来の機能を充実させることに加え、大人たち同士のつながりを深め、知見を広める効果も期待されています。



学校運営協議会の役割と取り組み

CSにおいてよくある誤りは、何か一つでも行事を作り開催すればよいと考えがちな点です。学校運営協議会の目的は、新たな行事を作ることではなく、生徒像の実現のために必要な取り組みを考え、見直しが必要な事項を考える働きを持つことです。運営協議会では、教育課程の見直しを学校とともに行うことも推奨されています。

地域学校協働活動News

実際に行われている学校運営協議会において熟議を通して実現した事例として、現金に触れる機会の少ない子供たちに、現金での売買を経験させてあげようと、地域の大人たちで夏祭りを開いたことがあったそうです。このように、熟議を重ね実行していく取り組みこそ、学校運営協議会の醍醐味といえるでしょう。そのため、無理に行事を行うよりも、恒常化できる計画の立案が求められています。

ともに考える

この講演を経て、学校運営協議会を行う上でのポイントは、「ともに考える」ことに集約されると感じました。朝倉先生が訪問した小学校の中には、学校運営協議会と学校側がうまく連携が取れず、学校運営協議会で考案された取り組みが無駄になっってしまったところもあったそうです。取り組みが教育課程とうまくかみ合わず、「ともに考える」ことができていなかったから起きてしまったということでした。学校運営協議会でもに考えることで、児童生徒の健全な育成につながっていくのです。

当日の参加者からは、「改めて学校運営協議会を再認識できた」「自分の自治体の体制を見直したい」「異なる立場の人と意見交換ができてよかった」等の声もありました。この講演が「ともに考える」いい機会になっていくことが伺えました。



ワークショップ

講演終了後のワークショップでは、グループごとに模擬学校運営協議会を行いました。それぞれの視点が異なることを踏まえた上で、一つの目的に向かって議論し、方向性を見出すという「熟議」の実践に取り組みました。模擬熟議ではまず、複数の仮データが与えられ、そこから強みや課題を出し合い付箋に記入し、模造紙に貼り分類するという作業を行いました。その上で目指す児童像・生徒像を協議し、さらにそのためにはどのような取り組みが必要か再び付箋を用いて意見を出し合い、模造紙にまとめるという順で進行了っていました。



地域学校協働活動News



同じデータを見ていても、そこから見出した強みや課題は様々であり、多様な立場の方々が集まることで、より多角的に子どもたちの成長に必要なとなる支援を考えることができるという学校運営協議会の強みを実感できる空間でした。目指す児童像・生徒像に関してグループによって差異があり、「一人一人を大切に、自分で考え行動できる子」や「自分を肯定しチャレンジできる子」などといった個性豊かな目標が掲げられました。羅針盤となる児童像・生徒像が何であるかを共有し、常に見直しながら協議を進めていくことができるため、行事が目的にすり替わることなく、一つの手段であることを意識でき、機能的な協議会の運営を体感することができました。

参加者はそれぞれの視点から意見を出し合い、和やかな雰囲気でありつつも活発な議論を行っており、時間になっても話が尽きないような場面も見受けられました。

子どもたちの生きる「これから」はどのような社会であるのか、子どもたちがどのような姿を見せることができるのか、地道な思考と対話を続けていくことが大切なのではないでしょうか。

参加者の声

他の方の意見を聞いたり、お話して、新しい考え方を学ぶことができました。
(放課後子供教室関係者)

校長先生の一方通行な情報発信の場ではなく、様々な環境の方が、いろいろな視点で子どもたちのことを考える場が学校運営協議会であることを改めて実感できました。
(地域学校協働活動推進員)

学校運営協議会で様々な熟議を実践していますが、今後どのように展開すべきか迷うことがあります。
本日の講義であらためて羅針盤となる児童生徒像の見直しなど取り組んでみたいと思います。
(教職員)

異なる立場の方と意見交換することの意義を理解できました。
(行政関係者)

地域学校協働活動News

第1回地域学校協働活動推進セミナー

令和7年7月30日(水) オンライン開催

事例発表者

穂山 孝幸 氏

鴻巣市立赤見台中学校校長

演題

生徒を見守り、
学校教育活動を支える
学校応援団との連携・協働

概要

●「赤中応援支隊」の組織

- ・ 結成の経緯
- ・ 構成員、部会

●「赤中応援支隊」の活動
年間6回会議を行い活動
内容等を話し合っている

【主な取組】

- ・ 剪定作業
- ・ 資源回収
- ・ 合唱コンクール
- ・ イルミネーション設置
- ・ 読み聞かせ
- ・ 新入生保護者説明会
での隊員募集

講師

金藤 ふゆ子 氏

文教大学人間科学部 教授

演題

地域学校協働活動の
推進と効果

概要

●地域学校協働活動とは

●その法的根拠は

●日本の生涯学習・

社会教育政策の変化

●いかなる問題があり、
改革が進められてきたか

●地域学校協働活動の

効果とは

- ・ 子供への効果
- ・ 大人への効果
- ・ 教員、学校への効果
- ・ 地域の学び合いの効果

参加者の声

赤中応援支隊の取組では、
人材集めに課題がある中、
長く続けていくための方策の
一端が見えたような気がしました。
参考に取り組んでいきたいです。
(行政関係者)

中学校の応援団の活動事例を
あまり知らなかったので参考になりました。
学校外での活動も写真で見せていただけて
よかったです。(学校運営協議会委員)

金藤先生のお言葉で、
やる気に火が付きしました。
早速、関係機関に働きかけ、
行動に移し、地域の方々の
笑顔を増やしていきます。
(教職員)

法的根拠に始まり、的確な
データに基づき、現状を踏まえて、
なぜ地域学校協働活動が必要かを
よく理解できました。
(家庭教育アドバイザー)

埼玉県限定公開セミナー動画チャンネルにて9月30日まで限定公開しております。
ご覧になりたい方は生涯学習推進課までお問い合わせください。

地域学校協働活動情報通信**COLLABO**は

地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働していくことが求められている今、県内各地の学校と地域の協働(collaboration)の様子について紹介していきます。年間5回の発行を予定しております。

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課 令和7年9月発行

電話：048-830-6979 メール：a6975-05@pref.saitama.lg.jp(ご意見、ご感想、取材依頼はこちらまで)